

(5) 連動装置を手動で起動させる場合

「起動スイッチ」を押すことで、連動装置を手動で起動させることができます。
「起動スイッチ」を押すと、即時に連動装置が起動します。(防火戸、防火シャッターが起動します)

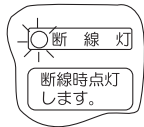
注意 ① 非常時(火災発生時等)、点検時以外は「起動スイッチ」を押さないで下さい。「起動スイッチ」を押すと防火戸、防火シャッター等の連動装置が起動します。
② 「起動スイッチ」の操作は、安全を確認した上で行って下さい。

(6) 予備電源の試験を行う場合

「予備電源試験スイッチ」を押し、予備電源の正常、異常を「予備電源灯」で確かめます。
この時「交流電源灯」は消えます。
正常な場合「予備電源灯」が点灯します。
異常な場合「予備電源灯」が消えます。

注意 ① 頻繁な予備電源試験は行わないで下さい。予備電源の消耗を早める恐れがありますのでご注意ください。

制御盤の機能



- (1) 感知器配線の自動断線監視
この制御盤は感知器配線の断線を常時監視しています。
① 感知器配線が断線すると「断線灯」が点灯します。
② 感知器配線の断線が正常になれば「断線灯」は消えます。

- (2) 移報信号
作動時は無電圧リレー接点を移報信号として出力します。



端子名称	平常時	火災作動時	備考
FA - FC 間	OFF	ON	FA : A (メーク) 接点 FB : B (ブレイク) 接点 FC : 共通端子
FB - FC 間	ON	OFF	

- (3) ヒューズが切れた時
制御盤の各ヒューズが切れると、次表に示す状態となります。
必ずヒューズが切れた原因を調べた上で、切れたヒューズを新しいヒューズと交換して下さい。また、交換するヒューズは必ず決められた容量のヒューズをお使い下さい。

注意 ① 決められた容量以外のヒューズを使用すると、万一の時の保護ができない上、発火等の危険があります。

ヒューズ名称	受信機の状態
F1・F2	「交流電源灯」が消えます。
FH	予備電源が繋がっていない状態となり、「予備電源灯」が点滅します。
FD	連動装置が起動しません。



本社 / 〒141-8660 東京都品川区上大崎 2-10-43 TEL 03 (3444) 4111 (代表)

【取扱店】

(2011.3) 2-3-030-0663-153



取扱説明書 RCP-EBW01型 (連動制御盤)

本装置は連動機構・装置等自主管理委員会の認定を受けた製品です。

この度はホーチキ製品をお買い上げ頂きまして、誠にありがとうございました。
本装置は1つの感知器回路を有し感知器作動時に表示・音響を発すると共に、接続された連動装置(防火戸、防火シャッター等を言う)の制御並びに移報信号の出力を行うものであります。

本装置を正しくお使い頂く為に本書を必ずお読み頂き大切に保管して下さい。また、設置工事につきましては工事説明書をお読み下さい。

● ご使用になる皆様へ ●

製品を正しくお使い頂く為、また、あなたご自身や他の方々への危害や財産への損害を未然に防止する為、この取扱説明書には色々な絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっていますので内容をよくご理解の上、本書をお読み下さい。

警告 この表示を無視して誤った取扱をすると、使用者が重傷を負うか、防災機器の一部に重大な悪影響を及ぼすことが想定される場合を表しています。

注意 この表示を無視して誤った取扱をすると、使用者が傷害を負うか、防災機器に悪影響を及ぼすことが想定される場合を表しています。



「禁止」の行為であることを告げるものです。



強制したり、指示する内容を告げるものです。

● ご使用上の注意事項 ●

警告 ● 消防設備士等の有資格者以外は分解したり、本体内部に手を触れないで下さい。感電や故障の恐れがあります。

● 許容範囲を越えた高温の場所、揮発性ガス・腐食性ガスの発生する場所、雨水のかかる場所では使用しないで下さい。故障の原因となります。

● 感知器のお手入れを行う時は高所作業となり転倒や落下などの危険があります。安全に作業できるように必ず足場の確保を行って下さい。

注意 ● 必ず定期点検を行って下さい。非常時に正常に機能しない恐れがあります。

● 清掃時にスイッチを操作しないように充分注意して下さい。誤って操作すると、作動してしまう場合や火災時の動作に支障をきたす恐れがあります。

● 機器の周辺に物を置かないで下さい。緊急時の操作に支障をきたします。

● 感知器のお手入れを行う時はアルカリ性洗剤を使用しないで下さい。樹脂がひび割れを起こして誤動作や故障の原因となります。

● 表面の汚れは、水に浸して固く絞った布で拭き取って下さい。

火災作動時の処置

- 火災作動した時は直ちに火元を確かめて下さい。
- 119番に電話をかけ消防署に火災を知らせて下さい。
- 火災の起きた場所、煙の状況等から建物内の人々を適切に避難誘導して下さい。
- できるだけ早く消火器等で初期消火を行い、火災が大きくなる前に消し止めることが先決です。

平常状態

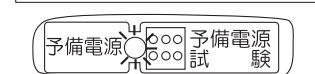
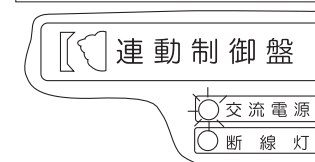
● 電源スイッチをONし、予備電源をつなぐと平常状態になります。
● 平常状態では、交流電源灯(緑)だけが点灯しています。
● 移報信号は、FB-FC側(B接点)がON状態となります。
● 本体の音響設置が止められている時は主音響停止灯、連動装置の起動が止められている時は連動、起動、遮断灯が各々点滅します。

注意 ● 主音響停止灯・連動、起動、遮断灯は消えた状態でご使用下さい。点滅状態では、火災報知、起動が遅れます。

停電時

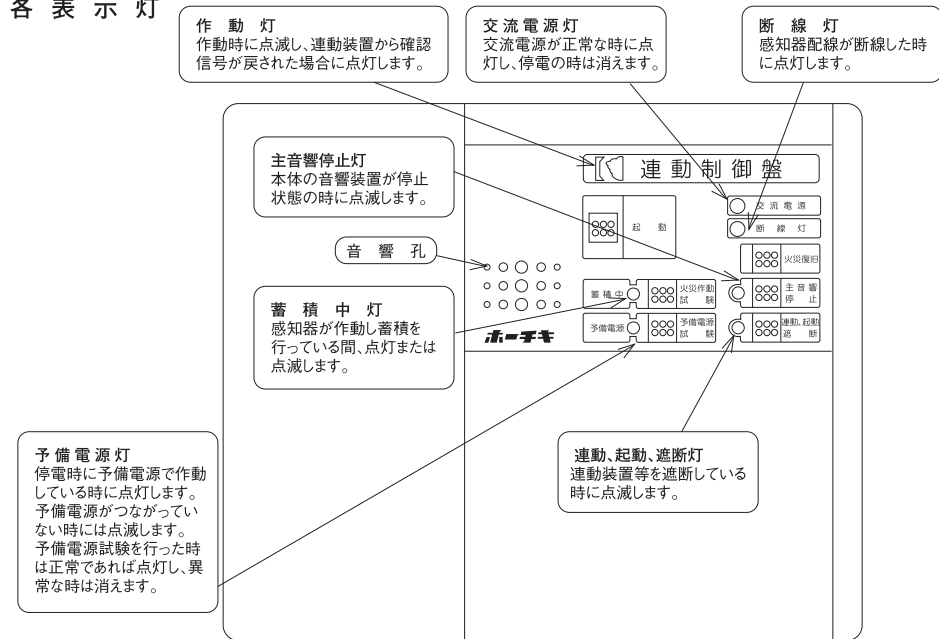
● 交流電源が停電すると、制御盤は自動的に予備電源に切り替わります。この時は予備電源灯が点灯し交流電源灯が消えます。

注意 ● できるだけ早く停電の原因を調べ、元の状態に戻して下さい。予備電源では一定時間しか動作しません。

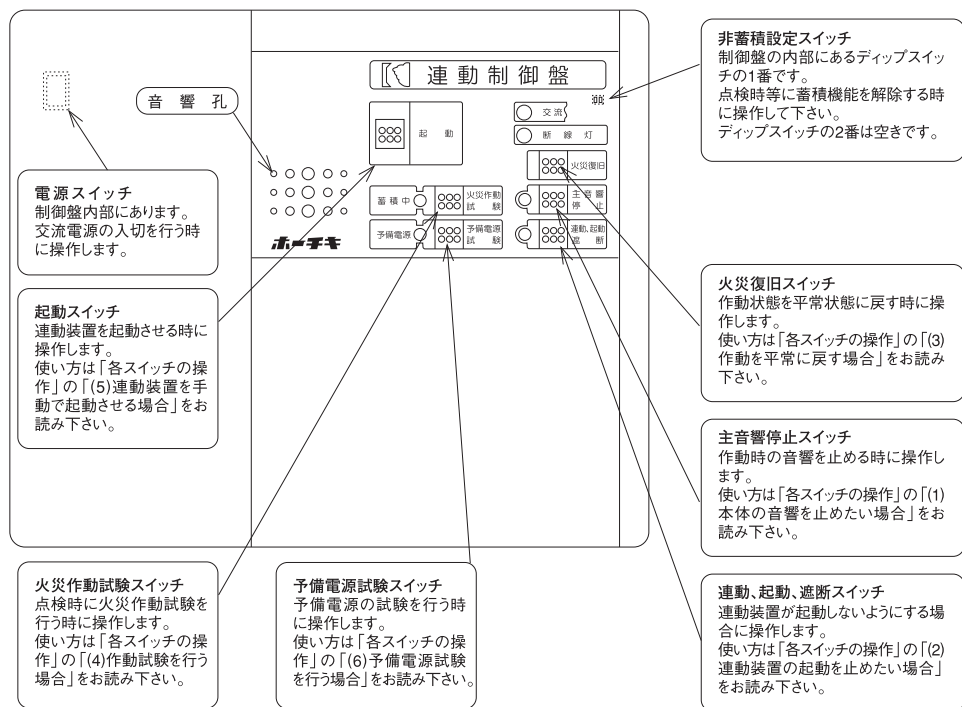


各部名称と働き

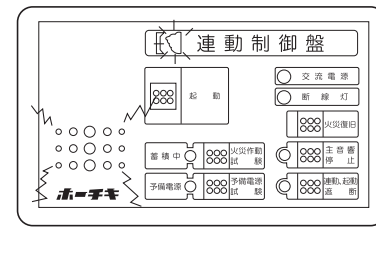
各表示灯



各操作スイッチと付属品の収納方法

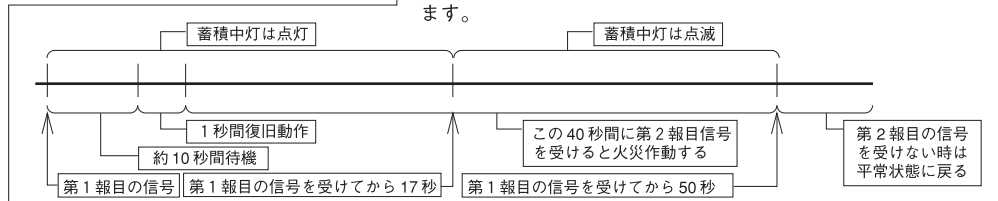


作動



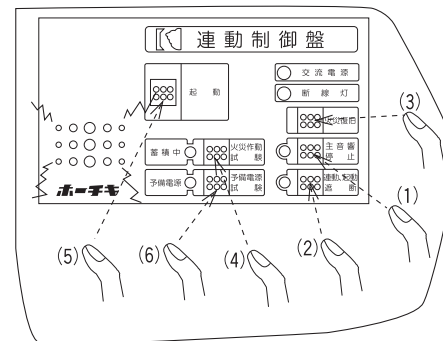
蓄積機能について

蓄積機能はセンサー信号（第1報目）を受けてから約10秒後に感知器を一旦復旧させ、第1報目の信号を受けてから50秒以内に再びセンサー信号（第2報目）を受けた時に作動状態になる機能を言います。なお、蓄積を行っている間は、蓄積中灯が点灯または点滅します。



{ 蓄積中灯の点灯/点滅合計時間は約50秒です }
蓄積時間 公称蓄積時間50秒

各スイッチの操作



- 本体の音響を停止する場合
「主音響停止スイッチ」を押すと音響は止まります。その際は、「主音響停止灯」が点滅します。
注意 ①「主音響停止スイッチ」は保守・点検用ですので平常時「停止した状態」にしておくと火災の発見が遅れます。必ず「鳴動する状態（主音響停止灯）が消えた状態」にしておいて下さい。
- 連動装置の起動を遮断する場合
「連動、起動、遮断スイッチ」を押すと連動装置が起動しません。その際は、「連動、起動、遮断灯」が点滅します。
注意 ①「連動、起動、遮断スイッチ」は保守・点検用ですので平常時「遮断状態」にしておくと、連動装置が起動しません。必ず「起動できる状態（連動、起動、遮断灯）が消えた状態」にしておいて下さい。

- 作動状態を平常に戻す場合
「復旧スイッチ」を押すと制御盤は復旧します。感知器が作動したままの時は、「復旧スイッチ」を押した後、再度作動します。
注意 ①「蓄積中灯」が点灯または点滅している時は、「復旧スイッチ」は押さないで下さい。火災作動が遅れる恐れがあります。
- 作動試験を行う場合
制御盤が正しく機能することを確かめる作動試験ができます。この試験では、実際の作動と同じ作動をします。（主音響が鳴動し、連動装置が起動します）
試験1
①「火災作動試験スイッチ」を押し続けます。
②「蓄積中灯」が点灯します。
③さらに「火災作動試験スイッチ」を押し続けると、約10秒後に作動すれば正常です。
試験2
①「火災作動試験スイッチ」を「蓄積中灯」が点灯するまで押して下さい。
②「蓄積中灯」の点灯から、約17秒後に点滅に変わります。
③「蓄積中灯」の点灯から、約50秒後に作動すれば正常です。
注意 ①作動試験は、安全を十分確認した上で行って下さい。この試験を行うと、防火戸、防火シャッター等の連動装置が起動します。